

第263回 令和8年7月2日（木）

「災害級の暑さ」

令和8年から40度以上の日を「酷暑日」と呼称することに決まりました。酷暑という言葉は新語というより改めて認証された言葉といった感じがします。真夏の酷暑は当たり前という時代も近いのかもしれませんが。

「10年に一度」とか「災害級の暑さ」というフレーズも聞きなれてしまうと「またか」という感想しか出てきません。「災害級」という言い方はやめて、「暑さは台風や地震と同じ災害である」としっかり認識すべきだと思います。休憩や水分補給だけでは対応できない状況になりつつあります。みなさんも十分に気をつけて、暑さへの耐久性は人によって、その日の体調によって違います。意識レベルまで症状が進むと自分ではどうしようもなくなってしまうので、ちょっと気持ちが悪いとか、寒気がするなどのレベルで危険と判断をしてください。

私が幼いころの夏は、7月と8月だけでした。6月は梅雨で「梅雨寒」という言葉があるくらい、寒い日が多かったように記憶しています。梅雨明けと同時に入道雲が青空に映えて、夏が来たとワクワクしたものです。

当時は真夏でも外で遊んでいました。帽子をかぶらないと日射病になると注意喚起はされましたが、暑さでおかしくなるようなことはありませんでした。夕方になるとスッと涼しくなり、夜には冷房はおろか、日によっては寝冷えしてしまうこともありました。8月の後半にはトンボが舞いはじめ、9月になるころにはすっかり秋がやってきました。

中学や高校で部活をやっていたころも「水を飲むな」という根拠のない風習がありましたが体調がおかしくなることはなかったの、いまのような暑さはなかったのだと思います。私の足元はいつも水たまりができるほど汗をかいていましたが熱中症になった記憶はありません。

暑さが災害になったのは最近のことです。いまや1年の半分は暑く、7月8月は救急車で運ばれる人が後を絶ちません。気をつけていても熱中症になります。あと数年で真夏の昼間は外で活動することができなくなるかもしれません。

暑さが収まる傾向は皆無なので、将来は45度の日を何と呼ぶか考えなくてはいけないことがほぼ確実でしょう。高温多湿の地域では人類が生息することが難しい気候となり、一定期間涼しい地方に移住する必要があるかもしれません。

地震は避けようがない災害です。一方暑さも同じで不可避の災害なのですが、予測ができることが違います。しっかり対策をして命を守ってください。